市政フォーラムの結果を報告します

その3 佐田・多伎・湖陵・大社地域

●おたずねは／広報情報課（☎㉑8578）または各支所地域振興課

市の基本指針である「地域特性が光るまちづくり」の実現に向け、各地域の皆さんの意見をお聞きしている市政フォーラム。

今回は、10月10日から11月13日にかけて実施した佐田・多伎・湖陵・大社地域で出された意見・提案の一部を紹介します。

佐田・多伎・湖陵・大社の4地域10会場で開催した市政フォーラムには、664人の参加がありました（写真は湖陵地区市政フォーラム　10月21日）

佐田地域

Q 施政方針の中で『21世紀出雲神話観光大国の創造』が基本方策の一つにあげられ、『観光回廊づくり』が述べられている。その構想の中で佐田地域はどのように位置づけられているのか

A 佐田地域は、須佐神社や八雲風穴、出雲須佐温泉、目田森林公園など豊かな歴史や自然資源に加え、むらくも座や、さだ須佐太鼓、神楽などの文化資源も有しています。また、旧農家を改造した「一縁荘」などの田舎ツーリズムによる癒しの空間整備は近年の観光ニーズに対応した観光資源でもあります。観光交流人口1千万人の実現のためには、この佐田地域を欠いては実現できないものと思っています。現在、市では観光基本計画を策定するため、審議会を立ち上げ、議論を重ねているところですが、そうした観点からも、この佐田地域は観光戦略上、重要な地域であると考えています。

夏になると涼を求めて訪れたくなる天然冷房「八雲風穴」

Q 佐田地域は人口減少が続き、加速的に小規模・高齢化集落が増えている。「出雲市まちづくり基本条例」では地域社会への支援、協働が提唱されている。今後の中山間地域の振興策について伺いたい

A 佐田地域では、これまでの過疎対策により、公共施設の整備は一定程度進みましたが、道路改良率など地域内格差は依然存在しています。また、人口減少や高齢化の進行などにより空き家の増加、森林の荒廃、耕作放棄地の増加など、生活・生産基盤の弱体化が進んでいます。

市としては、林業3F事業による林業の振興や農村公園の整備、佐田中学校の改築など様々な施策を実施し、佐田地域の振興を図っていきたいと考えています。このほか、人口減少や高齢化が進む佐田地域の抱える課題に対応するため、増加している空き家を活用した定住希望者の住宅確保等の検討に着手したところです。地域の皆さんと行政が一体となって、知恵を出し合い、連携・協働して、地域特性を生かしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

一方、現行過疎法の平成22年3月末の失効を控え、新たな過疎対策法の制定と過疎対策の更なる推進について、関係団体や県と一体となって要望活動等を強化し、中山間地域の振興策を図っていきます。

多伎地域

Q 新庁舎の建設が進む中、本庁および支所機能の今後のあり方は

A 全体の政策の推進、設計、調整事務、管理事務、市全体で取り組む対外的な業務などは、本庁で集約した方が効率的です。支所の業務としては、窓口業務（住民登録、税務、年金等）および住民生活に密着した業務（福祉サービス、公民館等の運営、生活道水路修繕等）があります。また、地域防災の拠点となるよう検討しています。

Q 田儀櫻井家のたたら製鉄遺跡関連の調査、国の追加指定などの進ちょく状況と今後の整備、活用の考え方について

A 越堂たたら跡、聖谷たたら跡、掛樋たたら跡等関連遺跡の基礎調査は終了し、現在は、佐田地域で分布調査を実施しています。また、文献史料調査も並行して実施しており、これらをまとめた古文書史料集を今年度作成する予定です。また、追加指定の進ちょく状況は、田儀櫻井家関連の「越堂たたら跡」と「聖谷たたら跡」の2か所については、本年7月末に「追加指定意見具申書」を文化庁に提出しました。まもなく国の文化審議会において答申が出される予定であり、追加指定の方向が示されます（11月21日、文化庁へ答申されました）。順調に進めば2月頃に官報告示され、正式に国指定史跡になる見込みです。

発掘によって発見された越堂たたら跡

Q 漁業の市場統合について、進ちょく状況と市場統合により新たに発生する大社までの運送費や、陸送にあたり必要となるリフト、パレット等の設備経費を助成する考えはあるか

A （仮称）出雲水産交流プラザの建設については、現在実施設計を進めており、平成21年度から仮設工事・解体工事・本体建築工事に着手し、平成22年度中の完成を予定しています。市は、2千万円弱を産地市場振興費としてJFしまねに助成します。

湖陵地域

Q 湖陵掛合線から神西新町を結ぶ路線（神西208号線）について、出雲インターに至るアクセス道路として、今後、交通量が増大すると考えられる。また、神西新町に消防署の分署が建設されることにより更に重要性が増す。早期改修を

A この路線については、平成20年度からの第1次幹線市道整備10か年計画において、新規路線⑱路線として位置付けています。現在事業中の継続路線㉞路線の整備の目途が立った時点で計画の見直しを行い、概ね後半の5年間で事業着手することとしています。

Q 中学校の部活動助成の継続を

A 河南地域（佐田・多伎・湖陵）3中学校以外には部活動に対する補助金はありません。市内の学校間の平準化を図るため、段階的に廃止する方針です。なお、部活動に対しては、県大会以上の大会への参加費補助や、平成19年度から、全国大会への出場が2年連続となる場合に補助の上乗せをするとともに、平成20年度には教育バスを1台増車して教育活動の充実に努めています。

大社地域

Q 松くい虫防除の空中散布について、空中散布を止めてしまうと、松の根が腐り、土砂が流れ大きな災害につながることは否定できない。時間帯を登校時間に重ならないようにするなど、次年度の散布を要望する

A 松くい虫の空中散布に関する5月に発生した健康被害の原因については特定できませんでしたが、10月から行っている「出雲市松くい虫防除検討会議」により、空中散布を実施するかどうかも含め、平成21年度以降の松くい虫防除対策について議論をいただいているところです。この中で「松林を守り、なおかつ市民の生命・健康を守る有効な松くい虫防除」について、年内には答申が提出される予定です〔12月2日、「出雲市松くい虫防除検討会議」（片桐成夫会長）から市長へ報告書が提出されました。詳しくは12月25日発行の広報いずもでお知らせします〕。

Q 市街地から日御碕への案内看板が少ない。観光客で賑わう日御碕を取り戻すため、眺欄荘跡地へのホテル誘致を推進するためにも、案内看板の設置を希望する

A 市街地の国道、県道の看板に「出雲大社」と併記できないか、関係機関に要望をしていきます。また、主要地方道大社日御碕線から日御碕神社入口付近のT字路に今年度看板を実施する計画です。

眺欄荘跡地へのホテル誘致については、企業2000社へダイレクトメールを送付し案内しました。現在までに18社から問い合わせがあり、5社が現地調査に訪れています。雇用については、地元からということで検討を進めています。

Q 過疎地のまちづくりを応援する講師の派遣を

A 地域づくりに関する専門家や経験者を呼んで、具体的・実践的な指導や助言を受けることは、積極的に自主的に地域づくりに取り組む皆さんにとって大変有益なことと考えています。現在、「ふるさと島根定住財団」では、地域づくりアドバイザー派遣事業を実施しています。これは、地域づくりに取り組む民間団体や自治会などに対して、希望する人材をアドバイザーとして派遣するものです。また、講師を招いて講演会を開催する場合には、コミュニティセンターの事業でも可能です。各コミュニティセンターに交付している自主企画事業やコミュニティセンターの専門部の研修費を活用していただけます。